

防災都市づくりのための社会資本整備計画

1. 「防災都市づくり計画」における社会資本整備の考え方

(1) 防災都市づくり計画

- ・都市計画マスタープランのアクションプランとして「防災都市づくり計画」を平成27年8月に策定
- ・本市が今後も住み続けたいなるまちであるためには、安全・安心を前提として、更なる利便性や快適性の向上を目指すことが必要
- ・防災都市づくり計画で定める具体施策2及び3の実現に向けて、防災という緊急課題をまちづくりの共通認識として、必要な各種事業を効率的・効果的に進めていくことが重要

さいたま市防災都市づくり計画の具体施策2及び3

施策2 将来都市構造を実現していく過程の中で 都市の防災性を高める

- ・安全な高密度市街地の形成
- ・災害リスクを考慮した土地利用や都市施設の整備



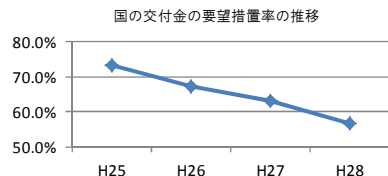
施策3 災害時に市民の生活を守るための 都市機能を確保する

- ・広域防災拠点等の整備
- ・広域的な道路ネットワークの整備



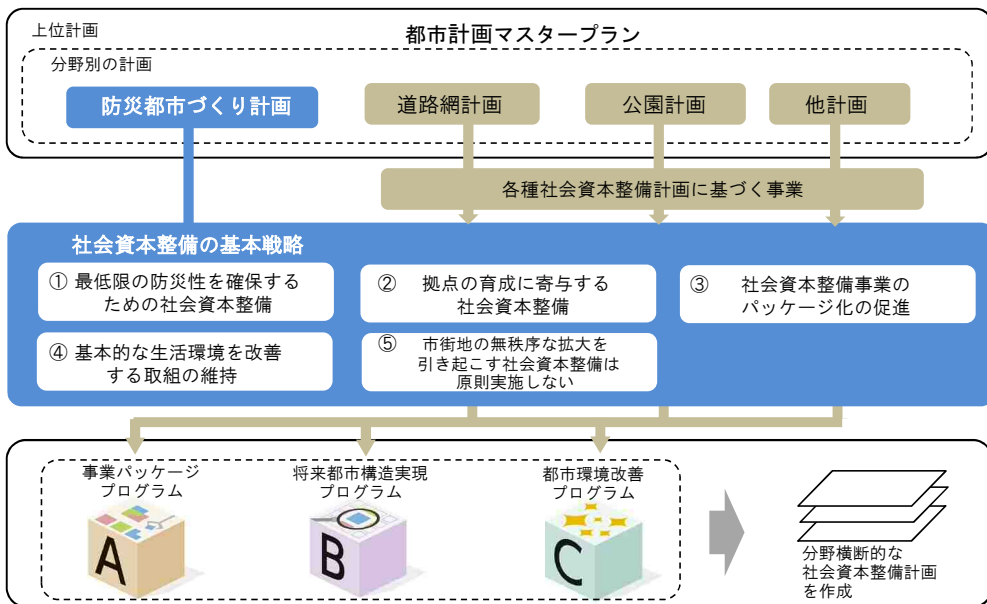
(2) 現状

- ・道路や公園等の整備に当っては、各種事業分野ごとに社会資本整備計画を作成し事業化しているため、進捗はそれぞれの事業所管課に任せている状況
- ・国からの交付金の措置が年々減少する等、厳しい財政状況下で、これまで通りの整備を進めても、すべて完成して効果を発揮するには長い期間を要する状況



(3) 解決の方向性

- ・防災都市づくり計画では「社会資本整備の基本戦略」を定め、この戦略に照らして、各種事業を3つのプログラムの中で検討し、関連性・重要性を明確にした分野横断的な社会資本整備計画を作成することで、予算とスケジュールを一体管理し、効率的・効果的に事業を実施するとともに、より多くの交付金の確保を目指す



2. 3つのプログラムの概要



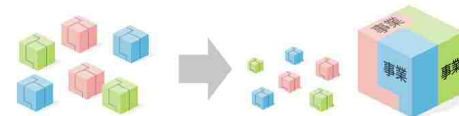
事業パッケージプログラム

実施中の重要な事業を着実に進めるためのプログラム

基本戦略 ① ② ③ ⑤

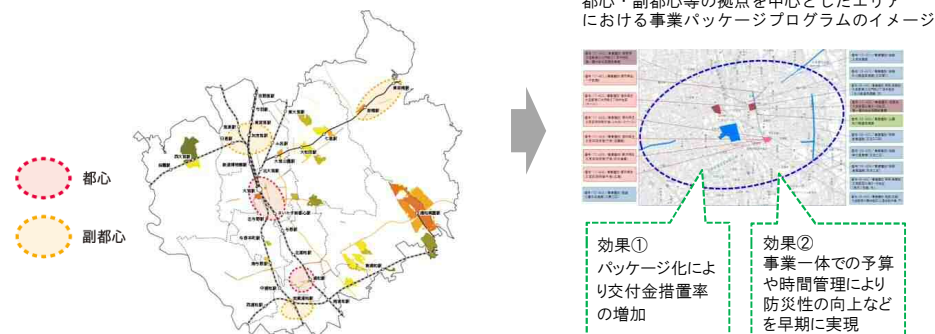
既存計画を「重点計画」とする事業組替えの実施による、国の交付金の更なる確保

防災面などから評価の高い事業を中心に、既存の社会資本整備計画から各種事業を抽出し、新たな整備計画に組み替える



パッケージ化の例

- ・実施中の事業について、都心・副都心等の拠点を中心としたエリアで、一体的に整備すべき事業をパッケージ化し、社会資本整備計画を作成



将来都市構造実現プログラム

新規事業に関して、将来の財政バランスなど勘案し、事業規模や実施期間等について、実現可能性を検討するプログラム

基本戦略 ① ②

広域的な都市機能確保

広域防災拠点の整備、都心・副都心等における防災拠点の整備及び広域的な道路ネットワークの整備



都市環境改善プログラム

今後の超高齢社会を見据え、生活の質を計画的に向上させるため防災の取組を基本としつつ、地域の実情に応じた取組を検討するプログラム

基本戦略 ① ③ ④

生活の質向上に向けた取組の実施による都市環境の改善

地区計画の導入等による地区内の道路の改善や、緑とオープンスペースの保全・創出

